

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 2 日現在

機関番号：14602

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02415

研究課題名(和文)『今昔物語集』の生成と受容の研究 - 作品論的分析 -

研究課題名(英文) Research on generation and acceptance of "Konjaku-monogatari-shu"
-Works-theoretic consideration-

研究代表者

千本 英史 (CHIMOTO, Hideshi)

奈良女子大学・人文科学系・教授

研究者番号：50188489

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：『今昔物語集』の成立について、九州大宰府という地域が何らかの関係を有しているのではないかということについて、1)『弘法法華伝』の渡来、2)源俊頼と『俊頼髓脳』の『今昔物語集』との関わり、3)「後三年合戦」および安倍宗任と『今昔物語集』との関わりの三点について、これまでの諸説を検討し、その可能性を指摘した。

『今昔物語集』の日本近代作家による受容について、菊池寛、今東光、杉浦明平という、これまでほとんど言及のなかった作家のケースについて、新資料を用いながら、検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『今昔物語集』は、日本古典文学中でもっとも名の知られた説話文学作品でありながら、その全体が文学全集などで提供されることも少なく、成立・受容過程については、疑問が山積している。

今回の研究は、具体的な観点を明示して、成立について、新たな角度から新視点を提示するとともに、ともすれば芥川龍之介などごく限られた作家についての「受容論」にとどまってきた研究を、日本近代文学全般への影響を考える観点から、これまで取り上げられることの少なかった作家について、資料を提供した。

研究成果の概要(英文)：Regarding the generation of "Konjaku Monogatari-shu", I clarified the related possibility of Dazaifu (ancient Kyushu area governance base).

Regarding the acceptance of "Konjaku Monogatari Shu", I conducted a basic elucidation of writers of modern Japanese literature 今東光(Kon Toko) and杉浦明平(Sugiura Minpei), which have not been studied so far. At the same time, I organized the various theories about 菊池寛(Kan Kikuchi) and examined them from a new perspective.

研究分野：日本文学

キーワード：今昔物語集 生成 受容 南方熊楠 鬮鶏神社

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

『今昔物語集』の研究は、個別の課題に焦点を当てたそれについては、多くの論文が毎年発表される状況にあるが、作品全体としての論著は、森正人氏や小峯和明氏らが単行著を公刊されてからじつに十五年もの間を経て、前田雅之氏による『今昔物語集の世界構想』(笠間書院 1999)がようやく刊行を見たのが、「最新の成果」という状況である。前田氏のこの単行著は実に前世紀末の刊行であり、それから二十年近く、『今昔物語集』を総体としてとらえようとする試みは単著としてはまとめられていない。

いっぽうで、この間、ことに歴史学的なまた宗教(史)学的な研究は、長足の進歩を遂げてきており、もう一度そうした観点を反映させつつ、『今昔物語集』の総体をとらえ返す必要が生じていると考えられる。

2. 研究の目的

本研究は、こうした近年の『今昔物語集』を取り巻く隣接諸分野での研究の進展を参照し、検討すべき課題のうち、特に、作品としての「生成」と後代の「受容」の二点に焦点をあてて、現時点での作品としての『今昔物語集』の意味を捉えようとするものである。

その場合、「生成」に関しては、東アジアの視野からの『今昔物語集』の意味、アイヌや南九州といった国土の南北問題とのかかわりを分析の視点として用いる。また、「受容」に関しては、国学者を中心として、後代の『今昔物語集』の受容のあり方を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

東アジアの観点については、近年の説話研究などから急速に解明が進んだ。本研究では、まず院政期に日本に渡来した『弘法法華伝』についての問題点を整理したい。『弘法法華伝』については、今日では、『今昔物語集』における『俊頼髓脳』の利用を重んじて、あまり言及されることがなくなりつつあるが、『今昔物語集』に成立の最終段階で取り込まれた素材であることは確かである。この朝鮮高麗王朝との関わりの深い作品が、作品全体として『今昔物語集』とどのように照応する中味を持つかについて、さらに深く考究する。

国土の南北の問題については、まず北方に焦点を当てる。函館の北方民族資料館、釧路市博物館などを訪問して、史料の拡充につとめ、年急速に充実している考古学分野の発掘報告書を含め、地方史史料を精査する中で、中世前期と北海道との関係、京都からする北方へのまなざしのあり様について理解を深めていきたい。その上で南さつま市金峰町の「持躰松遺跡」など南方との関わりについて考察する。『今昔物語集』は、二話一類型式で構成されるが、巻 31-11「陸奥 国安倍頼時、行胡国空返語」に組み合わされているのは、巻 31-12「鎮西人、至度羅島語」であった。『今昔物語集』の対外観、国土観において、北と南は対応している。

『今昔物語集』の受容のあり様については、以前おおまかな看取り図を論じた「近世の今昔物語集発見 国学者と出版」(『今昔物語集を読む』2008 所収)を受け継いで研究する。それぞれの国学者が書写した、文学作品を中心とする各種の写本を参照することが必要な手続きであり、横山由清を中心に研究する。

4. 研究成果

『弘法法華伝』については、これまでの研究の経緯を整理し、「『弘法法華伝』をめぐる」と題した論文を発表し、この時期の朝鮮高麗との関係、東大寺の学僧覚樹の関与、そこに連なる俊源が興福寺僧であった可能性などを明らかにした。『今昔物語集』の成立時における、高麗や大宰府との関係について再度注目される必要を指摘した。

国土の南北問題に関しては、南方への調査は行う余裕を持てなかったが、アイヌ文化、擦文文化、ホーツク文化については、数度にわたって各地の資料館での調査、資料収集を試み、巻 31-11「陸奥 国安倍頼時、行胡国空返語」について、巻 25-13「源頼時朝臣、罰安倍貞任等とも関わらせながら、安倍宗任の子孫が大宰府を中心とした九州地域に展開し、彼らの伝承と『今昔物語集』の成立とのあいだに関連のある可能性を、論文「『今昔物語集』の北辺」で指摘した。

『今昔物語集』の受容については、近世の国学者に関しては、横山由清についての数度の国会図書館での古写本などの調査にとどまり、それ以上の進展ができなかった。

その中で、『今昔物語集』の写本の解明の一端としては、明治期に下るが、日本に帰国した後、いまだにしっかりと定本を身近に得られなかった南方熊楠(彼が『今昔物語集』の研究史において果たした役割は近年急速に周知されるようになっていく)が最初に利用した、妻の実家でもあった田辺市鬮鷄神社の蔵であった鬮鷄神社本(巻二、巻十四の二巻のみが残存する)について、鬮鷄神社に残る他の近世写本・版本の調査とともにその解明を進め、鬮鷄神社本今昔物語集の全画像データをDVD化して添付した、『鬮鷄神社和漢書目録稿』を刊行することができた。鬮鷄神社の蔵本は、近世期のものに集中しており、この『今昔物語集』の二巻本がどのような経路で入手され、近世期においてどのように利用されたかについて、今後も検討を続けたい。なお、この鬮鷄神社本今昔については、地元の田辺市の南方熊楠顕彰館における2019年夏の特別企画展「鬮鷄神社と南方熊楠」(2019.7.20~9.16、

観覧者 1500 人強) においても、全体の DVD 公開と比較的詳しい解説パネルを準備し、地域の文化財として紹介することができた。

『今昔物語集』の受容については、近現代の文学者たちがどのように『今昔物語集』を受容したかについて、それぞれの作家の資料を収集公開されている各地の記念館、図書館の資料を活用させていただきながら、勤務校の研究紀要に「研究ノート」として、菊池寛、今東光、杉浦明平の三人の事例を追跡することができた。菊池についてはこれまでの研究を一步前に進めたと考えるし、菊池の弟子筋となる今東光や、杉浦明平についてはこれまで『今昔物語集』受容史においては黙殺されてきた存在である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 千本英史	4. 巻 47
2. 論文標題 『今昔物語集』の北辺	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 叙説	6. 最初と最後の頁 pp.1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千本英史	4. 巻 34
2. 論文標題 〔研究ノート〕『今昔物語集』と近代作家 -今東光と杉浦明平の場合-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 奈良女子大学人間文化研究科年報	6. 最初と最後の頁 pp.93-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千本英史	4. 巻 35
2. 論文標題 〔研究ノート〕『今昔物語集』と近代作家（二） -菊池寛『好色物語』・『新今昔物語』の場合-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奈良女子大学人間文化研究科年報	6. 最初と最後の頁 pp.131-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千本英史	4. 巻 36
2. 論文標題 「藁しべ長者」と「かはら」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 奈良人権部落解放研究所紀要	6. 最初と最後の頁 pp.3-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千本英史	4. 巻 1
2. 論文標題 『弘法法華伝』をめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 シリーズ・日本文学の展望を拓く（笠間書院）	6. 最初と最後の頁 235-248
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千本英史	4. 巻 -
2. 論文標題 中世の偽書	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『古典文学の常識を疑う』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 150-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 千本英史
2. 発表標題 多武峯談山神社の絵巻を読む 多武峯縁起絵巻・増賀上人行業記絵巻
3. 学会等名 桜井市・奈良女子大学共催講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 千本英史
2. 発表標題 藁しべ長者譚をめぐって～『古本説話集』下巻58話の「かはら」を中心に～
3. 学会等名 奈良人権センター歴史と文化研究会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 千本英史 辻晶子 向村九音	4. 発行年 2017年
2. 出版社 奈良女子大学大学院日本アジア文化情報学講座千本英史研究室	5. 総ページ数 40
3. 書名 鬮鶏神社和漢蔵書目録稿 = 暫定版 =	

1. 著者名 千本英史 辻晶子 向村九音	4. 発行年 2020年
2. 出版社 奈良女子大学大学院日本アジア文化情報学講座千本英史研究室	5. 総ページ数 39
3. 書名 鬮鶏神社和漢蔵書目録稿 付・鬮鶏神社本『今昔物語集』DVD	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----